

東京造形大学に対する正会員資格判定結果

I 正会員資格判定結果

審査の結果、貴大学は本協会の大学基準に適合していると判定し、正会員の資格を付与する。

正会員資格の有効期間は2016（平成28）年3月31日までとする。

なお、貴大学においては、次回の認証評価として、本協会の大学評価を受けることを期待する。

II 総評

東京造形大学（以下、貴大学）は、「造形」という概念を大学名に冠した日本初の大学として1966（昭和41）年に創立され、創設者のデザイン・美術に関する教育思想を「造形思想」と集約し、これを建学の理念とする造形学部と造形研究科を擁する美術系単科大学である。建学の理念は、デザイン・美術における総合性と社会性・現代性を重視するものであり、美術系の高等教育機関として適切である。また、建学の理念・目的・教育目標は、附属美術館における創設者の回顧展などをはじめとして、ホームページなどにおいて学内外への周知の努力がなされている。さらに、2007（平成19）年には、国際的美術・デザイン・メディア大学連合（CUMULUS）への加盟を果たすなど、国際的な地位の向上にも努めている。

教育課程については、教養教育や少人数クラスでの実習・実技を重視し、体系的で総合的な教育を実現している。大学院においても、幅広い視野を修得した学生の育成に努めている。しかし、年間履修単位数の上限が定められていないことについては、教育内容の特性に配慮しつつ、今後の改善が望まれる。

学生の受け入れについては、毎年10倍程度の志願者を確保しており、一般入試による入学者の割合が高く、円滑に行われている。しかし、2008（平成20）年度に関しては、造形研究科の定員充足率が過大になっているため、是正が望まれる。

専任教員の年齢構成に偏りはあるが、十分な教員数を確保した上で、全般に適正な学生定員管理を行いながら、少人数教育をとおして学生の個性を伸ばしつつ、人間性を涵養する教養教育にも組織的に取り組んでいる点は、芸術系大学の特性にふさわしい教育実践として評価できる。

施設・設備については、広大な校地・校舎面積を有しているため、一部の施設のバリアフリーに関しては、今後の課題である。

社会の変化に柔軟に対応するため、恒常的な自己点検・評価活動を踏まえ、教育・研究環境の整備に努め、教育・研究の総合的充実に取り組むことにより、大学の基本理念であ

る「造形の思想」を社会にも広く発信している点は、貴大学が健全に運営されていることを示している。

自己点検・評価については、学長を委員長とする「大学自己点検・評価委員会」を設置し、規程などの整備を行うとともに、事務局長直轄の組織である「リエゾンオフィス」を設置し、事務的な体制を整え、定期的に自己点検・評価を実施し、その結果を公表している。また、1995（平成7）年に本協会の賛助会員となり、2007（平成19）年度には、財団法人日本高等教育評価機構の大学機関別認証評価を受けている。今後も継続して、自己点検・評価活動に取り組み、貴大学の長所を伸張するとともに、改善につなげていくことが期待される。